

第3回(仮称)苫小牧市民ホール建設検討委員会及び

ワーキンググループ合同会議議事要旨

日時 平成29年11月6日(月) 13:30~16:30

場所 市役所9階会議室

出席 委員 12名

1 開会

- ・ 第2回合同会議が7月開催ということで、その間に開催された市議会について報告したい。
- ・ 市民ホールについて質疑があった「安全・安心及び市民ホールに関する特別委員会」では、6月と7月の検討委員会及びワーキンググループ合同会議の開催報告と7月に行った庁舎内の展示イベントの報告を行った。
- ・ 基本計画については、計画書の全体構成の他、施設計画の基本的な考え方として、基本構想で定めた7つの基本理念と4つの基本的な機能を実現することをベースに、現在の利用状況も踏まえて検討することを報告した。
- ・ また、近年整備された他都市の事例から、床面積を11,000~12,000㎡、㎡当りの単価を70万~80万円と想定した場合、77~96億円の建設費になることも報告した。
- ・ 設計者の選定に関して、金額によって決める競争入札方式、創造力や技術力を評価して設計者を決めるプロポーザル方式、民間活力を利用し設計から建設、運営までを実施させるPFI方式について説明し、この市民ホール事業にとって最善の方法について検討を進めている。
- ・ 建設地について、これまで出された4つの敷地、現市民会館敷地、苫小牧東小学校敷地、駅前の旧egao跡地、総合体育館南側の末広公園について、建物を配置した場合にどのようなボリュームになるのか、また、敷地に合わせて建物の規模や形状を変更した場合にはどうなるのか、図面で示し説明し、市としては、駐車場を含めた敷地の大きさ、法的な問題などから現東小学校敷地が最も適していることを説明した。
- ・ 質疑では、苫小牧東小学校敷地と現市民会館敷地との一体的な土地利用について、駐車場台数の確保の点からも検討していくこと、ホール機能の数と客席数について、現在の利用状況からみても2つは必要と考えており、客席数の設定についても市民主体の活動を基本に考えていくこと、会議室等の大きさについては、現在の利用状況を踏まえ、稼動間仕切壁の設置などフレキシブルな対応も考慮し検討を進めること、等の質疑があった。

2 議題

(1) 市民ワークショップの報告

資料1 (仮称) 苫小牧市民ホール 市民ワークショップ (2017年10月21日開催) 報告

(2) 基本計画書の進捗について

資料2 基本計画書の章立て (案)

(3) 前回の確認

資料3-1 第2回検討委員会 (2017年7月24日開催) ボリューム検討

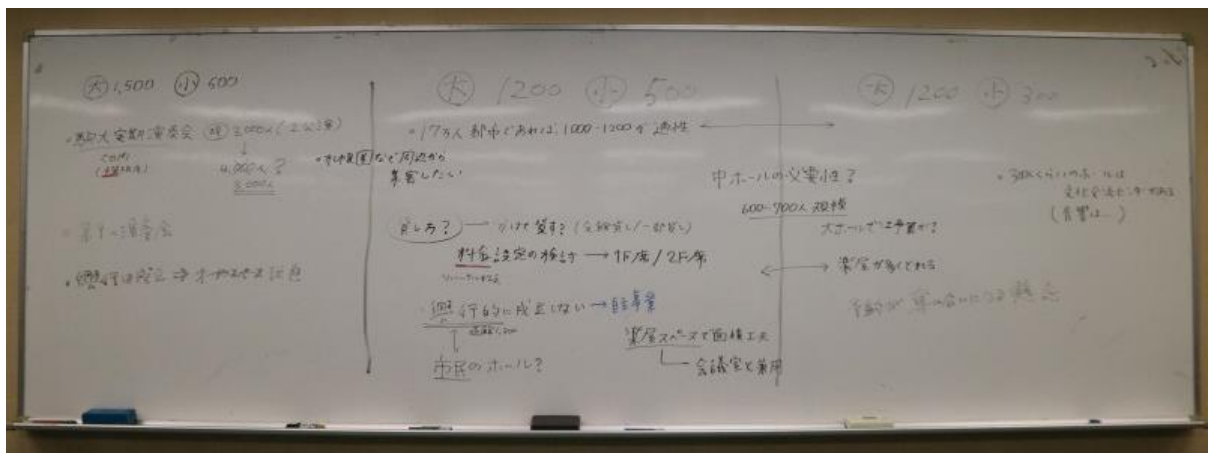
資料3-2 第2回検討委員会 (2017年7月24日開催) 各案の特徴

資料3-3 事務局モデルボリューム案

(4) 諸室の規模・仕様について

資料4-1 事業アイデアと諸室の関係

資料4-2 イベント規模別ホール利用数、ホール席数の検討



- ・ 駒澤大学附属苦小牧高校の定期演奏会は1,500席以上の規模となっているが、仮に2,000席のホールで行った場合にも現状と同じく2回公演が満席となるほど人気のイベントなのか。
 - ➔1,600席を丁度捌ける程度の人気があり、2,000席を満員にするのは難しいだろう。
 - ➔オーケストラピット部分の席を外していることもあるので、実際の客数は1,500席程度である。
- ・ 2日間4回公演とすることは可能か。
 - ➔生徒、演者の負担や金銭的にも難しい。
- ・ 興行以外で集客数が最も多いのがこの駒澤大学附属苦小牧高校の定期演奏会か。
 - ➔日本女性会議のような数年に一度回ってくる全道/全国規模のイベントなどがある。
- ・ 現状では、文化会館のホールで小さすぎる場合にやむを得ず市民会館の大ホールを使用することがあり、1,600席に対し500-600程度の集客で客入りが悪い印象を受けてしまう。滅多にないような大きなイベントに合わせるよりも、苦小牧の人口規模的に適当な席数を考える必要があるだろう。
- ・ 駒澤大学附属苦小牧高校も、ホールの規模が提示されればそれに合わせた演奏会を行うだろう。
- ・ 現行の条例では1階席と2階席を別に貸すようなことはできず、1,600席のホールのうち500席を使用しようと料金は変わらないので、階ごとに貸し出せるような仕組みがあると良い。
 - ➔ホールの料金が安くなればチケットの必要販売数なども変わってくるため、現状の規模を維持する必要があるか検討できるだろう。ただし、なるべく多くの方に演奏を聴いてもらいたいという話は別に考える必要がある。
- ・ 全国的な興行は1,500席を基準に公演場所を決めるので、1,200席とした場合その選択肢から消えてしまうだろう。
 - ➔オープンスペースを狭め市民利用の可能性を下げてまで興行を呼べるホール規模にするよりも、興行を呼べなくとも市民利用を優先したホール規模にするべきである。
 - ➔市民優先とし、大規模なツアーコンサートのようなイベントの開催候補地から外されたとしても、自主事業として興行を呼ぶ努力をしている施設は多く、1,200席はそれが可能な規模だと感じている。
- ・ 楽屋は興行がない期間は空いている状態だが、リハーサル室的に設えれば会議など多用途に貸し出すことも可能であり、施設として面積的な余裕もできるだろう。
 - ➔ダンスの練習ができる防音室は文化会館とCOCOTOMAに1室ずつしかなく、ほぼ埋まっている状態であり、本来の用途ではない会議室に鏡を設置し練習しているような状況であるので、バックヤードに防音の部屋があると良い。
- ・ 市民利用に適した規模や専門的な設備など、小ホールの作り方は様々考えられる。

- ・ 市民の需要を考えると、600-700 席規模が求められており、苫小牧のクラシック人口は 800-900 人といわれていることから、700-800 席規模の中ホールが昔から望まれている。
- ・ 吹奏楽の場合、大人数が舞台に立つため舞台の広さを考慮すると、現状の文化会館のホールでは狭いと感じる。
- ・ 1,200 席の大ホールを 600-700 席でも利用できるようにした場合、小ホールの規模ほどの程度が適切か。
➡小ホールの規模は 300 席程度に抑え、コラボスペースなどに面積を割くのが良いだろう。
- ・ 市民会館に比べ、文化会館は教育施設であるため低い料金設定となっている。新しい施設では市民利用を促すためにも低めの料金設定となることを期待している。
- ・ 大ホールの区分利用など、ホールが市民にとって使い勝手の良いものになると、一方で利用申請が重なり抽選となってしまふことが懸念される。
➡最低でも 500 席ないしは 700 席規模の小ホールが大ホールとは別に必要だろう。300 席規模のホールとしては、文化交流センターがある。
➡文化交流センターは音響が悪く、可動席がかなり音を立てるのであまり使わない。
- ・ 市内だけでなく、胆振圏や札幌圏の人々が苫小牧へ訪れるきっかけになる施設になると良い。
➡気軽に利用できる本格的なホールが求められている。